



四万十川（中筋川）流域で確認されているツルには、マナヅル、ナベヅル、アネハヅル、タンチョウがいます。これらをシリーズで詳しくご紹介します。

マナヅル〔真鶴、学名 *Grus vipio*〕

分類／鳥綱ツル目ツル科

分布／ユーラシア大陸東部

すがた／全長約 130cm。頭頂から首の後ろ、喉が白く、目の周囲と額が赤い。背、胸、腹は暗い灰色。

生態／マナヅルは、ロシア南東部や中国北部、モンゴルで繁殖し、中国南部や朝鮮半島、日本で越冬します。日本では主に鹿児島県出水市を訪れ、他には鹿児島県阿久根、熊本県阿蘇、佐賀県、山口県八代や四万十川流域にも訪れますが、近年ではそれらでの越冬はまれです。越冬地ではつがいと幼鳥による大規模な群れを形成します。また、ナベヅルなど他種のツルと混群を形成することもあります。生息に適した環境は農耕地や草原、湿原で、雑食性で魚類や昆虫、植物の葉、種子などを食べます。

※参考：「マナヅル」「フリー百科事典 ウィキペディア日本語版」
2007年6月18日（月）17:20 UTC、URL: <http://ja.wikipedia.org>

あなたも「ツルの里づくり」に参加しませんか

四万十つるの里づくりの会では今年度、「セブン－イレブンみどりの基金（特別指定助成）」を受け、活動を実施します。また、これらの活動は、昨年度に引き続き四万十川自然再生協議会や国土交通省の「四万十川自然再生事業」などとの協働で実施される予定です。

事務局では、これらの取り組みに参加・協力いただける方を随時募集しています。お気軽にご連絡下さい。

平成 19 年度の活動（予定）	
5～7月	休耕田の実態調査 ― 終了
7月	ツルの自然体験学習会：えさ場づくり（四万十市中山地区） ― 悪天候のため中止 ※えさ場づくりは8月に会員で実施
8月～	休耕田の借り上げ作業 ― 継続中 えさ場づくり除草作業および肥料・もみ撒き（四万十市江ノ村地区）
10月	ねぐらづくり
11～12月	つるの行動・環境体系調査
平成 20 年 1月	シンポジウム開催

四万十川（中筋川）流域でツルを見かけた方は…

ぜひ事務局までご一報を!!

発見場所、時刻、発見時の状況（飛行・着地の別も）をできるだけ詳しくお知らせ下さい。

例）「〇月×日、午後4時30分頃。四万十市江ノ村地区でマナヅル5羽を発見。上空を西方向へ飛行」



ツルを見かけたら

お願い



四万十川（中筋川）流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと速くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守って下さい。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会 事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel:0880-34-4333 / fax:0880-34-1451
mail: naka10@ccliweb.or.jp

つるの 雑記帳



「四万十つるの里づくりの会」 ホームページもできましょ～!

<http://www.shimanto-tsuru.com>
平成 19 年 10 月中旬オープン

ホームページでは、各種取り組み・イベント告知、実施報告などをよりフレッシュな状態で皆様にお届けしていきます。会報共々よろしくお願ひします!



四万十川（中筋川）流域には、昭和 40 年代からナベヅルやマナヅルなど多くのツルたちが飛来し、平成 12 年までは越冬も確認されていました。しかし、最近ではその姿が見られなくなっています。

現在、わが国のツル類の越冬地としては、鹿児島県出水市が有名で、世界のナベヅルの約 9 割がそこで冬を越えています。しかし、越冬地が集中していると、伝染病が発生した場合などに絶滅の危機をもたらします。ツル類の越冬地分散化はいまや国際的な課題となっており、国は平成 13 年から越冬地分散化計画を検討。その有力な候補地の 1 つとして四万十市（当時 中村市）も選定されました。

それにあわせて地域住民の間でも「ツルの里づくりで四万十川の原風景を再生しよう」という取り組みが始まりました。



ツルの目から見た四万十川（中筋川）流域

四万十上空を飛行する
マナヅルの群れ

ツルの環境保全と 地域の活性化をめざして



「四万十つるだより」創刊に寄せて

四万十つるの里づくりの会 会長 多和博嗣

四万十市中筋平野等に飛来するツルの越冬地として、自然環境の保全、整備を促進し、地域の活性化を図ることを目的に、平成 18 年 3 月に「四万十つるの里づくりの会」を設立しました。現在では四万十市内の民間団体と地域区長会等が連携して、ツルのえさ場・ねぐらづくり、自然体験学習会など、さまざまな取り組みを進めています。また、この取り組みには、国土交通省中村河川国道事務所、高知県、四万十市もオブザーバーとして参加していただいております。

このたび「四万十つるの里づくりの会」では、活動の一環として会報「四万十つるだより」を発刊することとなりました。今後紙面では、流域のツル類の保護に携わる多くの方々の情報を紹介してまいりたいと思います。そのためにも、皆様には是非たくさんのお便りをお寄せいただきたく存じます。「四万十つるだより」が皆様にとって役立つものとなり、かつ皆様楽しんで読んで下さることを願って止みません。

今後とも、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。